

クラス	TU320	担当教員	渡辺 頭一郎
テーマ	子ども家庭福祉における実践研究		
著書・論文 研究課題等	<p>【著書】</p> <p>『詳解 地域子育て支援拠点ガイドラインの手引（第3版）』中央法規、2018年</p> <p>『家庭支援の理論と方法』金子書房、2015年（共著）</p> <p>『「気になる子ども」と「気にする先生」への支援』金子書房、2013年（共著）</p> <p>『子ども家庭福祉の基本と実践』金子書房、2009年 など</p> <p>【最近の研究論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「障害児通所支援事業所の利用決定過程における保護者の情報収集・検索に関する全国調査：第三者評価の認知と支援の質の向上に向けて」 『帝京大学心理学紀要』 (24), 2020年（共著）. ・『地域子育て支援拠点事業に従事する職員の資質向上研修に関する調査研究』（厚生労働省 平成30年度子ども・子育て支援推進調査研究事業）、2019年（共著：主任研究者）. ・「発達障害児とその保護者への支援に関する保育者研修のあり方についての検討」 『日本福祉大学子ども発達学論集』 (9),2017年（共著）. 		
ゼミナール概要			
キーワード： 子ども家庭福祉、子育て支援、障害児支援			
目的、内容、方法、授業計画等：			
<p>【目的】</p> <p>ゼミでは、子育て支援センターや障害児通所支援事業などの現場に出向いて活動したり、フィールドワークを通して実践的な研究を進めていきます。今はコロナの影響もあってなかなか現場に出ることができないのが残念ですが、感染状況が収束したら、ゼミ生と一緒に実践的な研究に取り組むことを楽しみにしています。</p>			
<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもだけでなく、子育てを行う親の立場から地域の子育て支援の必要性を理解し、地域子育て支援拠点の役割や、さらには市町村を核とする包括的支援のあり方について学ぶ。 ・発達障害児などを中心に、発達に課題がある子どもとその保護者への支援について学ぶ。とくに、障害のある子ども本人の目線に立ってその「生きづらさ」を理解し、保育や教育等の場面における支援（とくに合理的配慮）について学ぶ。 			
<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にグループでの課題研究を行った上で、保育所、子育て支援センター、児童発達支援、放課後等デイサービスなどの現場に出向いて活動を行う。実践に基づいた研究を指向する。 ・県内の近隣地域だけでなく、夏期休暇中に合宿を兼ねて県外の先進的な活動団体への視察（ボランティアを含む）を行う。2022年度は横浜市の地域子育て支援拠点での視察・活動を予定している。 			
<p>卒業研究：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究については、3年後期から研究課題を設定し、科学的な考察や実証的研究の進め方を学ぶ。 ・4年次には個別指導を中心に、卒業研究を完成させるための指導を行う。 			
担当教員からのメッセージ			
<p>机上の学習だけでなく、現場に出向いての活動を大切にすることで、積極的に実践の中に身を置いて子どもや保護者とかかわることを希望する学生を募ります！</p> <p>また、せっかく4年制大学で学んでいるので、学生が自ら「問い」を設定し、それを理論的・客観的に検証し、「人をどのように支援すればよいのか」を科学的に研究できるスキルを身に付けてほしいと思います。</p>			